



はれるんマガジン

～気象・地震に関わる素朴な疑問に答えます～ 発行：福岡管区気象台

今月のテーマ

福岡県西方沖の地震 あれから20年

今年3月で、2005年に発生した「福岡県西方沖の地震（※1）」から20年となります。今回のはれるんマガジンは福岡県西方沖の地震をテーマにお届けします。この機会に当時を振り返るとともに、普段からの地震への備えなどについて考えてみませんか。

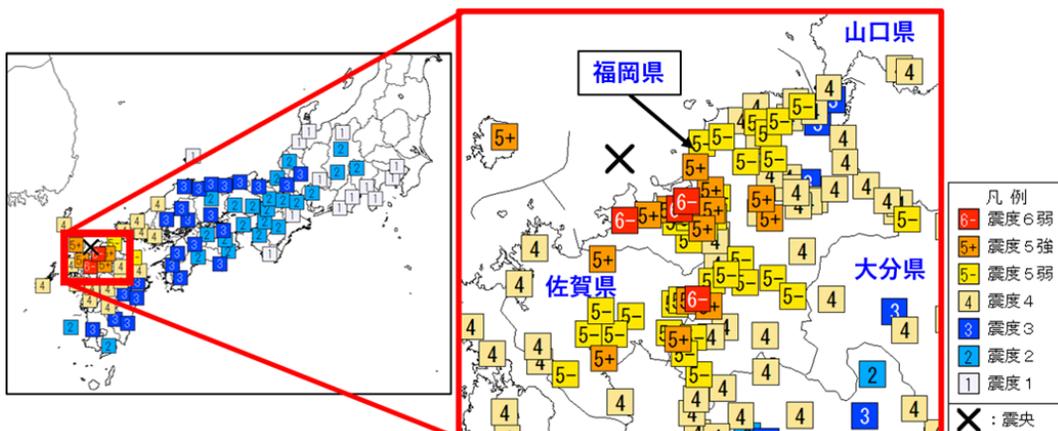
※1 地震発生当時の震央地名は「福岡県西方沖」でしたが、現在は「福岡県北西沖」に変更されています。本誌では当時を振り返る観点から「福岡県西方沖」と表現しています。

■どんな地震だった？

2005年3月20日10時53分、福岡県の西方沖で大きな地震が発生しました。福岡市や前原市（現在の糸島市）、佐賀県みやき町で震度6弱を観測したほか、関東地方から九州地方の広い範囲で震度5強から1を観測しました。さらに1か月後の4月20日にも大きな地震が発生し、福岡市、春日市、嘉麻市、新宮町で震度5強を観測しました。

震源及び規模等

発生時刻	2005年3月20日 午前10時53分	
発生場所（震源）	北緯33度44.3分	東経130度10.5分
	福岡県西方沖	深さ9km
規模（マグニチュード）	7.0	
最大震度	6弱（福岡市、前原市（現在の糸島市）、佐賀県みやき町）	



震度分布図（2005年3月20日10時53分の地震）

この地震では、木造の家屋が倒壊したり、ビルのガラスが割れたり、崖崩れや液状化現象が起こったりするなど、大きな被害が生じました。また、倒壊したブロック塀の下敷きになり1名の方が亡くなりました。震源に近かった福岡市西区の玄界島では住家の被害が大きく、多くの島民が避難生活を余儀なくされました。



写真提供：福岡市市民局危機管理課（現 地域防災課）

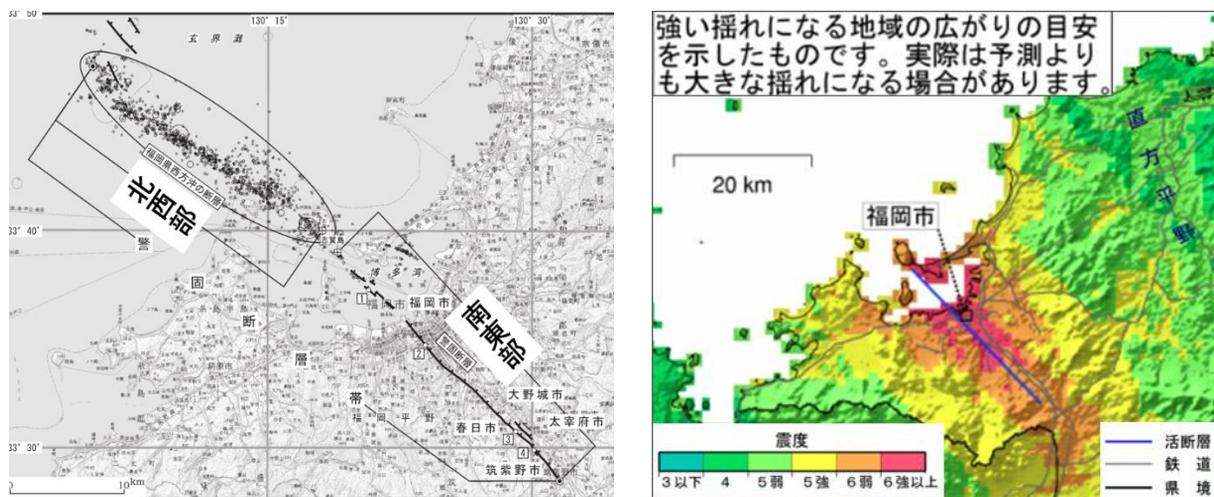
地震の被害

左：玄界島の建物被害、右：ガラスの割れたビルと道路に散乱したガラス

■玄界灘から福岡平野にかけて分布する「警固断層帯」

福岡県西方沖の地震は活断層「警固（けご）断層帯」の「北西部」で発生しました。警固断層帯は、玄界灘から博多湾を経て福岡平野にかけてほぼ北西-南東に分布しており、過去の活動時期の違いから「北西部」（玄界灘から志賀島付近にかけて）と、「南東部」（志賀島南方沖の博多湾から筑紫野市にかけて）に区分されます。このうち、「南東部」の活断層は地震調査研究推進本部（※2）によって、今後30年以内の地震発生確率が「高い（Sランク）」と評価されています。「南東部」で地震が発生した場合は震度6強以上の大きな揺れが予測されています。

※2 阪神・淡路大震災の経験を活かし、地震に関する調査研究の成果を社会に伝え、一元的に推進するために設置された政府の特別機関。



左：警固断層帯の位置、右：警固断層帯(南東部)の地震による予測震度分布
警固断層帯の長期評価（地震調査研究推進本部）より

■地震から身を守るために

福岡県には警固断層帯のほかにも活断層があり、北九州市から田川市にかけて分布する「福智山断層帯」も警固断層帯と同じく、今後30年以内の地震発生確率が「高い（Sランク）」と評価されていますが、地震はいつ、どこで起こるかわかりません。地震から身を守るためには、日頃からの備えが大切です。家具を固定したり、避難場所や避難経路を確認したりするなど、地震に備えておくとともに、緊急地震速報や津波警報等を見聞きした際の行動を確認しておきましょう。

緊急地震速報が発表されたら

あわてず、まず身の安全を！

緊急地震速報を見聞きしたとき、揺れを感じたときは危険な場所から離れるなど、状況に応じて身の安全の確保を

屋内では

- 頭を保護し、じょうぶな机の下など安全な場所に避難する
- あわてて外に飛び出さない
- むりに火を消そうとしない

鉄道・バスでは

- つり革、手すりにしっかりつかまる

エレベーターでは

- 最寄りの階に停止させ、すぐにおりる

屋外では

- ブロック塀の倒壊に注意
- 看板や割れたガラスの落下に注意

車の運転中は

- 急ブレーキはかけず、ゆるやかに速度をおとす
- ハザードランプを点灯し、まわりの車に注意をうながす

Yahoo!ニュース オリジナル 監修：気象庁

⚠️ 震源に近い地域では、緊急地震速報の発表が強い揺れに間に合わないことがあります

津波警報などを知る手段

携帯電話 にげて！	津波フラッグ	サイレン／鐘 避難してください！	ラジオ 高台へ！	テレビ 避難！
--------------	--------	---------------------	-------------	------------

↓

大きな揺れ、津波警報などですぐ避難！

海から離れる 絶対に海を見に行かない 津波警報などの発表時は戻らない	ただちに高い場所へ 避難所ではなく 避難場所 へ 日頃から 避難場所 の確認を	車は使わない 渋滞に巻き込まれる懸念 原則、徒歩で避難を
---	--	---

監修：気象庁 制作：Yahoo!ニュース

また、福岡管区気象台では、「緊急地震速報を用いた地震津波避難訓練キット」の貸出しを行っています。このキットは緊急地震速報のアラーム音（NHK音源+ガタゴト音のCD）と緊急地震速報を見聞きした時にとるべき行動（安全確保行動）を覚えていただくための小・中学生向け説明資料（PPTファイル）がセットになったものです。子どもたちが緊急地震速報を見聞きした際、自分で判断し身の安全を守る行動をとることができるようになるよう、ぜひ、学校等での避難訓練にご活用ください。（お問合せは地域防災推進課まで）

地震の時の行動 地震の時みんなはどうしますか？

いつも先生が、いっしょにいるわけではないよ！
自分の体(命)は、自分でまもることが大切だよ！
地震から体(命)を覚えよう！

緊急地震速報 対応行動訓練キット (貸出用)

緊急地震速報 来る前に知ろう

「緊急地震速報を用いた地震津波避難訓練キット」（説明資料の一部）

■特設サイトを開設しました！

福岡管区気象台ホームページに特設サイト「福岡県西方沖の地震から20年」を開設しました。このサイトでは、地震の概要や福岡県内で確認されている活断層、地震防災に関する知識・情報をイラストや写真を用いて解説しています。学校やご家庭で当時を振り返るとともに、日頃の地震への備えについて考えるきっかけとして、ぜひご覧ください。

1 福岡県西方沖の地震とは？



2 地震・津波から身を守る



3 活断層とは？



4 当時の気象庁や気象台の対応 現在の気象庁の地震・津波の仕事



福岡県西方沖の地震から20年
(気象台ホームページ)



特設サイト「福岡県西方沖の地震から20年」(イメージ)

この20年の間に、気象庁・気象台では地震・津波による被害軽減のために、緊急地震速報の提供開始や技術的改善、南海トラフ地震臨時情報の運用開始などの取組を行ってきました。これからも地震・津波災害を防止・軽減するために、技術的な改善や、情報を理解・活用いただくための周知活動など、さまざまな取組を進めていきます。



ご意見をお待ちしています

問合せ先

〒810-0052 福岡市中央区大濠1-2-36

福岡管区気象台地域防災推進課はれるんマガジン編集部

電話：092-725-3614

e-mail：fukuoka_bousaichosa@met.kishou.go.jp



2025年、気象業務は150周年を迎えます

次回の発行は2025年4月の予定です。